



廃棄物の可能性を見だし 再び価値ある資源に変える 循環型社会への貢献

今年「第20回 兵庫県環境にやさしい事業者賞」を受賞した「ハリマ産業エコテック(株)」。建築廃材から食品廃棄物まで、それぞれの廃棄物が持つ特性を最大限に生かした多様な製品作りに取り組んでいます。

ハリマ産業エコテック(株)

廃棄物のリサイクル事業を展開。廃棄物から製紙原料、燃料、飼料の製造・販売を行う。平成18年、兵庫県で初めて、再生利用事業者に登録された。

専用コンテナに分別され、回収されるんだね。



畜舎の飼料や肥料・堆肥に生まれ変わるのね。



廃棄物を再び資源へ 特性に応じた製品作り

一人一日当たり平均約1.5kg排出しているといわれているごみ。そのほとんどが焼却処分されている中、資源としての価値を十分に秘めたものもたくさんあります。ハリマ産業エコテック(株)は、こうした廃棄物から新たな製品を作るリサイクル事業を展開しています。

建材の製造販売を行っていた昭和59年、当時ほとんどが焼却処分されていたという建築などの解体木くずをチップ状に加工し、建築原料や製紙原料として製品化するリサイクル事業をスタート。近年では、原料としての需要に加え、化石燃料を使用しないバイオマスボイラーの燃料用チップとしての需要が高まっているそうです。

食品工場から排出される食品廃棄物は、専用コンテナにより分別され、腐敗・臭気を防止するため冷蔵車で回収。品質の安定した原料を確保するための工夫が凝らされています。良質な食品残渣は畜舎の飼料に、その他の食品残渣や排水処理汚泥は肥料や堆肥に再生されているそうです。

廃棄から生産へ 循環する社会に向けて

再生できる廃棄物を再び資源として社会で活用する循環システムの確立を目指し、廃棄物と生産とをつなげる農林水産業も展開しています。木質や食品廃棄物から製造された堆肥、肥料を使って土作りを行い、ブルーベリーを栽培。また、地元、網干港でカキの養殖を行い、カキ殻を有機石灰肥料に製造するなど多角的な事業を展開しています。

次代を担う子どもたちへ

昨年には、次代を担う子どもたちに環境に興味を持ち、地球の大切さを知ってもらおうと、環境問題をテーマにした絵本「ENJOY ECO BOOK」を発行しました。「地球を守るために自分たちに何ができるのか、何をすべきかを考えてもらえばいいな」という思いで作りました」と話す管理課長の岡山又彦さん。絵本は、取引先の銀行などの待合室に置かれているほか、小学校では環境学習の教材として使用されているそうです。

「ENJOY ECO BOOK」は環境学習の教材としても使われているのね。



廃棄物からできた堆肥・肥料を使って、ブルーベリーが栽培されているよ。

